

## (4) 新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する 11 の知識(2021 年8月版)

厚生労働省 ホームページ資料より

1. 日本では、これまでにどれくらいの方が新型コロナウイルス感染症と確認されていますか。  
**A (8/31 23:59 時点) 149 万 1352 人・重症 2110・死亡 1 万 6083 人前日比 +65 人 (編集室更新)**
2. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人や死亡する人はどれくらいですか。  
**A** 重症化する人の合や死亡する人の割合は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者は低い傾向にあります。重症化する割合や死亡する割合は以前と比べて低下しており、2020 年 6 月以降に診断された人の中では、・重症化する人の割合は約 1.6% (50 歳代以下で 0.3%、60 歳代以上で 5%)、・死亡する人の割合は約 1.0% (50 歳代以下で 0.06%、60 歳代以上で 5.7%)。
3. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化しやすいのはどんな人ですか。  
**A** 重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患のある方、一部の妊娠後期の方です。重症化のリスクとなる基礎疾患等には、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙があります。
4. 海外と比べて、日本で新型コロナウイルス感染症と診断された人の数は多いのですか。  
**A** 日本の人口当たりの感染者数、死者数は、全世界の平均や主要国と比べて低い水準で推移。
5. 新型コロナウイルスに感染した人が、他の人に感染させる可能性がある期間はいつまでですか。  
**A** その可能性がある期間は、発症の 2 日前から発症後 7~10 日間程度とされています。※また、この期間のうち、発症の直前・直後で特にウイルス排出量が高くなると考えられる。このため、新型コロナウイルス感染症と診断された人は、症状がなくとも、不要・不急の外出を控えるなど感染防止に努める必要があります。
6. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どれくらいの方が他の人に感染させていますか。  
**A** 2 割以下で、多くの人は他の人に感染させていないと考えられている。このため、感染防護なしに 3 密 (密閉・密集・密接) の環境で多くの人と接するなどによって 1 人の感染者が何人もの人に感染させてしまうことがなければ、新型コロナウイルス感染症の流行を抑えることができる。体調が悪いときは不要・不急の外出を控えることや、人と接するときにはマスクを着用することなど、新型コロナウイルスに感染していた場合に多くの人に感染させることのないよう行動することが大切です。※マスクの着用により、感染者と接する人のウイルス吸入量が減少することがわかっています。(布マスクを感染者が着用した場合に 60-80%減少し、感染者と接する人が着用した場合に 20-40%減少。)
7. 新型コロナウイルス感染症を拡げないためには、どのような場面に注意する必要がありますか。  
**A** 主に飛沫感染や接触感染によって感染するため、3 密 (密閉・密集・密接) の環境で感染リスクが高まる。このほか、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要。
8. 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査にはどのようなものがありますか。  
**A** PCR 検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の体内にウイルスが存在し、ウイルスに感染しているかを調べるための検査。新たな検査手法の開発により、検査の種類や症状に応じて、鼻咽頭ぬぐい液だけでなく、唾液や鼻腔ぬぐい液を使うことも可能になった。なお、抗体検査は、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるもので、検査を受ける時点で感染しているかを調べる目的に使うことはできない。

## 9. 新型コロナウイルス感染症はどのようにして治療するのですか。

**A** 軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要な場合に解熱薬などの対症療法。呼吸不全を伴う場合には、酸素投与や抗ウイルス薬、ステロイド薬（炎症を抑える薬）、免疫調整薬、中和抗体薬※1の投与を行い、改善しない場合には人工呼吸器等による集中治療を行うことがある。※。こうした治療法の確立もあり、新型コロナウイルス感染症で入院した方が死亡する割合は低くなっています。発熱や咳などの症状が出たら、まずは身近な医療機関に相談してください。※1 国内で承認を受けている治療薬として、レムデシビル、デキサメタゾン、バリシチニブ、ロナプリーブ（2021年7月19日新たに特例承認）があります。（2021年8月2日時点）※集中治療を必要とする方または死亡する方の割合は、約1.6%（50歳代以下で0.3%、60代以上で8.5%）

## 10. 新型コロナワクチンはどのようなワクチンですか。今後どのように接種が進みますか。新型コロナウイルス感染症の患者数・病原性 新型コロナウイルス感染症の感染性 新型コロナウイルス感染症に対する検査・治療

**A** ワクチンの特徴について8月1日現在、国内では、ファイザー社製とモデルナ社製の2つのワクチン。メッセンジャーRNAワクチンという種類のワクチンで、ファイザー社製は3週間、モデルナ社製は4週間の間隔で2回接種。なお、新たにアストラゼネカ社製のワクチン（ウイルスベクターワクチン。4～12週間の間隔で2回接種。）も接種可能なワクチン。①ワクチンの有効性について新型コロナウイルス感染症を予防する効果。接種を受けた人が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した（熱が出たり、せきが出たりすること）人が少ないということがわかっている。（発症予防効果は約70～95%と報告されている。）また、感染を予防する効果についても、それを示唆する研究結果が蓄積されつつある。②ワクチンの安全性について接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛などが接種した人の50%以上、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱などが10%以上に見られると報告。こうした症状の大部分は数日以内に回復。また、接種後にアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されている。もしアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能で、予防接種の接種会場や医療機関では、医薬品などを準備。③今後の接種の進め方について接種を行う期間は、令和3年2月17日から令和4年2月末までの予定。医療従事者等と高齢者に続き、基礎疾患を有する方、一般の方への接種を進める。自衛隊や自治体における大規模接種会場等での接種や、企業や大学等の職業単位での接種を可能とするなど、接種の加速化を図っている。

## 11 新型コロナウイルスの変異について教えてください

**A** 一般的にウイルスは増殖・流行を繰り返す中で少しずつ変異、新型コロナウイルスも約2週間で一か所程度の速度で変異している。現在、新たな変異株が世界各地で確認されており、警戒を強めていく必要がある。日本では、B.1.617.2系統の変異株（デルタ株）への置き換わりが進んでおり、スクリーニング検査での陽性率（機械的な試算）は、全国的には約45%となっている。厚生労働省では、新型コロナウイルスのゲノムを解析し、変異の状況を監視。世界保健機関（WHO）や専門家とも情報交換を行い、こうした変異の分析・評価を行うとともに、国内の監視体制を強化していく。また、変異株事例が確認された場合には、検査や積極的疫学調査を強化して、感染拡大防止に取り組む。基本的な感染予防対策は、変異株であっても、3密（密集・密接・密閉）や特にリスクの高い5つの場面の回避、マスクの適切な着用、手洗いなどが有効です。※1 B.1.617.2系統の変異株（デルタ株）は2020年10月にインドで最初に検出された変異株です。※2 専門家によると、B.1.617.2系統の変異株（デルタ株）は、B.1.1.7系統の変異株（アルファ株）よりも感染性が高いことが示唆されるため、注視していく必要がある。ワクチンについては、変異株に対しても二回接種後には有効性を示す研究結果も評価・分析されている（2021年6月20日時点）。